ブロック名：恵庭

新型コロナウイルス感染症の対応について

《養護教諭の実践・支援》

児童生徒の様子（感染症に関わって）	・マスクを外すことや人込みに行くこと、家族と離れることへの不安を訴える児童生徒が見られた。 ・蛇口や石けんの共用に不安をもつ児童生徒がいた。 ・感覚過敏のためマスクがつけられない児童生徒もいる。 ・休み時間では多くの子どもが外遊びをしており、発散している様子が見られる。
児童生徒への指導	・休校明け、「新しい生活様式」についてパワーポイントを作成したり、掲示物や保健だよりを活用した指導を行っている。
家庭・教職員への情報発信	・保護者にはおたよりなどを活用し情報発信をしている。 ・教職員へ朝の打ち合わせや職員会議等を活用し情報発信を行っている。
その他	・休校明けに「心のアンケート」を実施し、担任に聞き取りを行ってもらい、子どもの把握と指導にいかした。（※資料） 内容としては「夜なかなか眠れない」「自分や友だち、家族がコロナにかからないか心配」などの回答が見られた。

《各校の現状》

校内の消毒方法	・ほとんどの学校はエタノールを使用し、机やいす等、校内の消毒を行っている。（一部、次亜塩素酸ナトリウムやマイペットも使用）
清掃活動の対応	・換気を行い、清掃後の手洗いを徹底して行っている。ただし、ごみ捨てやトイレの便器掃除などは教員が行っている学校が多い。児童生徒が行っていても、使い捨て手袋などを使用して行っている。
給食の対応	・当番の児童生徒の健康状態を毎日確認し、適切でない場合は当番を替えるなどの対策をとっている。 ・配膳は主に担任と当番の児童生徒で行うところが多く、おかわりなどは担任が行うなどしている。 ・ほとんどの学校が分散して手洗いをしている。
健康観察シートの対応	・毎日担任が学級で確認をしている。体温を測り忘れた児童生徒については、保健室で測ることが多かったが、8月に市教委より非接触型の体温計が学級数分支給されたため、学級で対応できるようになった。 また、玄関前で健康観察シートを確認する学校もあり、測り忘れや体温が高い児童生徒は入口を変えるなど、工夫している学校もある。
保健室来室者の対応	・臨時保健室を開設したり保健室を仕切るという形ですみわけをしている学校がある。

熱中症対策	・児童生徒が水筒を持参し、こまめな水分補給を促している。（中身は水、お茶などスポーツドリンクも可としている学校もある） ・水をしみこませて使う、クールタオルや汗拭きタオルの持参を可とする学校もある。 ・扇風機を稼働している。（市教委より複数台、各学校に配置された） ・マスクの着脱のタイミングについて注意を呼び掛けている。
教育委員会の対応 （必要物品の配布等）	・泡石鹸や消毒液など、基本的には要望をすれば購入してもらえる。 ・宿泊行事や社会見学などに必要な物品も要望をだし、購入してもらえることは可能。
その他	・泡石鹸など必要物品はいつまで支給されるのか見通しがもてない。 ・ハンカチやマスクの衛生状態の不安。

《今、困っていることや交流したいこと》

・宿泊行事での、体温の確認方法や発熱の判断をどうするのか。
・感染の不安から欠席が続いている子どもについての対応をどうするのか。